

仕様書別紙① 医用画像情報管理（放射線）システム【ソフトウェア】

- : 対応可
- ▲ : カスタマイズ/他社システム導入で対応可（対応内容を備考欄に詳細に記載すること）
- × : 対応不可

| 項番1 | 項番2 | 項番3 | 項番4 | 仕様 | 対応 | 備考 |
|-----|-----|-----|-----|---|----|----|
| 1 | 1 | | | システム全般 | | |
| | | | | 本仕様書の性能、機能に関する要求要件に対して、「単に“できます”、“有します”といった回答や提案は、要求要件を満たしていないものとして不合格とする場合がある（審査にあたって提案の根拠が不明確、説明が不十分で判定に重大な支障があると判断される場合）。 | | |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 日本IBM社製の電子カルテシステム（製品名：CIS）と、情報連携が可能なこと。また、他病院において同システムと連携の実績があること。 | | |
| 1 | 1 | 1 | 2 | サーバ及び端末について、電子カルテシステムで利用しているNTPサーバの設定が可能であること。また、サーバ-クライアント間で日時の整合性が保たれていること。 | | |
| 1 | 1 | 1 | 3 | ハードウェアの設置及び設定作業については、本調達に含むものとする。なお、設置場所並びにネットワーク環境等については、契約後別途指示する。また、段ボールや梱包材などは納品業者が処分すること。 | | |
| 1 | 1 | 1 | 4 | ソフトウェアライセンス並びにハードウェアの保証等に係る手続きについては、納品業者が実施すること。 | | |
| 1 | 1 | 1 | 5 | 納入するソフトウェア・機器は、設置までの間に装置の仕様変更やソフトウェアのバージョンアップがあった場合には、最新の仕様で引き渡すこと。 | | |
| 1 | 1 | 1 | 6 | 本病院に既存する各種装置間の接続及び連携（※別紙連携装置一覧を参照）は、納品業者の責任において調整を行い、画像観察装置等の情報表示装置等で必要な情報が確実に装置等から出力され、連携できるようにすること。また、複数ベンダの製品で提案する場合は、受託者が責任を持って対応すること。 | | |
| 1 | 1 | 1 | 7 | 停電、瞬断、電圧低下等一定時間の電源損失継続時には、データを損失することなくシステムを安全に停止できる機能を有すること。 | | |
| 1 | 1 | 1 | 8 | システム保守は、リモート環境を用意し、一次対応を実施すること。また、365日24時間対応とすることし、システムの稼働後、一年間は無償で保守を実施すること。2年目から5年目までの保守費用を見積りに含むこと。 | | |
| 1 | 1 | 1 | 9 | ハードウェア保守は、365日24時間受付、オンサイト保守とすること。また、システムの稼働後、一年間は無償で保守を実施すること。2年目から5年目までの保守費用を見積りに含むこと。 | | |
| 1 | 2 | | | システム構成 | | |
| 1 | 2 | 1 | | 以下の事項に考慮して、耐障害性及び運用可用性に配慮したシステムを提案すること。 | | |
| 1 | 2 | 1 | 1 | RISシステム導入にあたって、同時に導入されるPACSシステムで構築される仮想サーバに導入できること。Reportシステムは専用のServerを準備すること。 | | |
| 1 | 2 | 1 | 2 | レポート端末 10台 | | |
| 1 | 2 | 1 | 3 | AmiVoice 10式 | | |
| 1 | 2 | 1 | 4 | Office Professional 10式 | | |
| 1 | 2 | 1 | 5 | ATOK・医療辞書 10式 | | |
| 1 | 2 | 1 | 6 | アンチウイルスソフト 読影ワークステーション・レポート端末・検査端末台数分（ただし、システム管理端末を提案する場合は、管理端末分も含む） | | |
| 2 | 1 | | | RIS:放射線情報システム | | |
| 2 | 1 | 1 | | ソフトウェアは以下のシステム定義要件を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 1 | 1 | 放射線部門業務システム（以下「RIS」という）は、電子カルテ・病院情報システム（以下「HIS」という）、医用画像情報サーバ（以下「PACS」という）、所見レポート作成システムなどのサブシステムおよび検査装置（以下「モダリティ」という）と連携し、放射線部門の業務を支援するシステムであること。 | | |
| 2 | 1 | 2 | | ソフトウェアは以下のHIS連携(オーガ連携/電子カルテ連携)を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 2 | 1 | HISから検査予約情報、検査番号、オーガ情報（検査日時、検査種別、部位情報、オーガコメント、臨床診断、検査目的、依頼医、依頼科、読影有無）を通信にて取得しデータベースに登録管理できること。 | | |
| 2 | 1 | 2 | 2 | HISから患者情報（患者ID、患者名、性別、年齢、生年月日、身長、体重、クレアチニン値、eGFR値などの検査情報、障害情報、妊娠情報、アレルギー情報、体内金属）を通信にて取得し、データベースにて登録管理でき、HISからの電文内容に基づいて新規登録、変更できること。 | | |
| 2 | 1 | 2 | 3 | 患者情報は、受付もしくは、検査実施時に当該患者の最新情報を再取得できること。 | | |
| 2 | 1 | 2 | 4 | 検査実施情報をHISへ送信できること。 | | |
| 2 | 1 | 2 | 5 | 検査実施時に検査（部位）の追加や削除など変更が発生した場合は、RISで変更登録ができ、HISへ送信できること。 | | |
| 2 | 1 | 2 | 6 | HISとの通信履歴を確認できること。 | | |
| 2 | 1 | 2 | 7 | RIS画面で指定した患者のHIS画面を起動できること。 | | |
| 2 | 1 | 2 | 8 | HIS通信において、放射線領域における標準部位マスタコードJJ1017が利用できること。 | | |
| 2 | 1 | 3 | | ソフトウェアは以下のモダリティ連携を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 3 | 1 | DICOM MWMプロトコルをサポートするモダリティからの患者基本情報、オーガ情報の取得要求に対応できること。 | | |
| 2 | 1 | 3 | 2 | DICOM MPPSプロトコルをサポートするモダリティから実施情報を取得し管理できること。 | | |
| 2 | 1 | 3 | 3 | 造影剤インジェクタとDICOM MWM接続で患者情報、オーガ情報を連携できること。使用済み造影剤情報を取得できること。 | | |
| 2 | 1 | 4 | | ソフトウェアは以下のサブシステム連携を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 4 | 1 | オーガ情報、検査実施情報をPACSと連携できること。 | | |
| 2 | 1 | 4 | 2 | PACSから画像到着通知を受信し検査の進捗が管理できること。 | | |
| 2 | 1 | 4 | 3 | オーガ情報、検査実施情報を所見作成レポートシステムと連携できること。 | | |
| 2 | 1 | 4 | 4 | 一覧または実施画面で選択・表示している患者の画像、画像診断レポートが1操作で表示できること。 | | |
| 2 | 1 | 4 | 5 | オーガ情報、進捗情報を放射線治療部門情報システムと連携できること。 | | |
| 2 | 1 | 4 | 6 | URL情報や起動パスを登録することにより、一覧または実施画面から共有フォルダやアプリケーションを連携起動できること。 | | |
| 2 | 1 | 5 | | ソフトウェアは以下のシステム全般機能を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 5 | 1 | ユーザーIDとパスワードによるシステムログイン時のユーザー認証ができること。 | | |
| 2 | 1 | 5 | 2 | 画面操作をしないまま一定時間が経過した場合、ユーザー認証を解除し、オートログアウトされること。 | | |
| 2 | 1 | 5 | 3 | 各画面は、スクリーンモニター、ワイドモニターに対応した最適な表示ができること。 | | |
| 2 | 1 | 5 | 4 | 複数モニターで構成する場合、RIS画面を初期表示するモニターを指定することができること。 | | |
| 2 | 1 | 5 | 5 | 端末単位の設定で対象検査室、検査機器、印刷時のプリンタ等を指定することができること。 | | |
| 2 | 1 | 6 | | ソフトウェアは以下のメインメニュー機能を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 6 | 1 | メニューは、予定実働照会、プレチェック、受付、検査実施、検査台帳、業務日誌、統計管理、検査にわかれていること。 | | |
| 2 | 1 | 6 | 2 | メニューに表示する各業務（ボタン）の表示・非表示、並び替えは、端末単位で設定できること。 | | |
| 2 | 1 | 7 | | ソフトウェアは以下の掲示板機能を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 7 | 1 | 1画面に全体、当日、端末、グループ別に登録されたメッセージが表示できること。 | | |
| 2 | 1 | 7 | 2 | 全体メッセージは、表示期間設定ができ汎用ファイル（jpg,xlsx,docx,mp4,pdf）を貼り付けることができること。 | | |
| 2 | 1 | 7 | 3 | 当日メッセージは、2か月カレンダーで構成され、メッセージが登録されている日が色替え表示されること。 | | |
| 2 | 1 | 7 | 4 | 端末メッセージは、特定の端末もしくは、予め設定した端末グループ向けのメッセージが登録、表示できること。 | | |
| 2 | 1 | 7 | 5 | メッセージ文は、フォント設定、文字サイズ、色などの文字修飾ができること。 | | |
| 2 | 1 | 8 | | ソフトウェアは以下のメッセージ機能を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 8 | 1 | 端末間および端末グループ間でテキストメッセージの送受信ができること。 | | |
| 2 | 1 | 8 | 2 | メッセージ定型文を予め設定できマウス選択でメッセージ送信できること。 | | |
| 2 | 1 | 8 | 3 | メッセージを至急、緊急、通常に分類することができること。 | | |

- : 対応可
- ▲ : カスタマイズ/他社システム導入で対応可 (対応内容を備考欄に詳細に記載すること)
- × : 対応不可

| 項番1 | 項番2 | 項番3 | 項番4 | 仕様 | 対応 | 備考 |
|-----|-----|-----|-----|--|----|----|
| 2 | 1 | 8 | 4 | メッセージ送信時間と確認済み情報が確認できること。 | | |
| | | | 5 | RISが起動中の場合は、メッセージ画面が非表示でもソフトウェアを起動状態とし、新着メッセージを受信したらモニタ右下からウインドリ表示 (トースト表示) され、新着メッセージがあることを通知できること。 | | |
| 2 | 1 | 9 | | ソフトウェアは以下の検査一覧機能を満たすこと。 | | |
| | | | 1 | 一覧画面では患者ID、呼出状況、検査日 (日指定、期間指定)、検査進捗を検索条件として一覧が表示できること。 | | |
| 2 | 1 | 9 | 2 | 一覧画面では検査種別、検査室、検査機器、依頼科、依頼日付、内外区分、病棟、業務区分、部位などの組み合わせを条件とした検索結果が一覧表示できること。 | | |
| 2 | 1 | 9 | 3 | 検査種別、検査室、入院/外来、依頼科、検査ステータスを合わせた検索条件をプリセット登録し、画面上にボタン表示できること。検索プリセットは、30種類以上表示できること。 | | |
| 2 | 1 | 9 | 4 | 夜間当直時に発生した緊急検査オーダーのみを一覧表示できること。 | | |
| 2 | 1 | 9 | 5 | 緊急検査オーダーを含む宿直時間帯に絞った一覧表示ができ、通常業務一覧から1操作で切り替えられること。 | | |
| | | | 6 | 検査ステータスを8段階以上で管理できること。ステータスは、進捗に合わせて自動で切り替わること。 | | |
| 2 | 1 | 9 | 6 | 〔未受付〕〔遅刻〕〔受付済〕〔検査中〕〔保留〕〔再受付〕〔検査済〕〔中止〕 | | |
| 2 | 1 | 9 | 7 | 一覧画面では検査ステータスをアイコンで表示できること。 | | |
| 2 | 1 | 9 | 8 | 入院患者を病棟から呼出し中であることを一覧画面で確認できること。 | | |
| 2 | 1 | 9 | 9 | PACSから受信した情報とともに、画像保管の完了を一覧表示できること。 | | |
| 2 | 1 | 9 | 10 | 同性同名、同性患者が一覧画面上に存在することを注意喚起表示ができること。 | | |
| 2 | 1 | 9 | 11 | 一覧画面の表示状態 (項目、桁数、文字サイズ、フォント、書体 (標準・太字・斜体)、表示 (セル) 幅、行の高さ) の設定や変更が端末、画面単位でできること。 | | |
| 2 | 1 | 9 | 12 | 一覧画面に表示する機能ボタンの設定、並べ替えおよびファンクションキーへの割り当ては、端末、画面単位でできること。 | | |
| 2 | 1 | 9 | 13 | 表示中の一覧情報を自動リフレッシュ (再検索) 表示する、しないの設定が端末、画面単位でできること。 | | |
| 2 | 1 | 9 | 14 | 表示中の一覧情報を印刷・CSV出力することができること。 | | |
| 2 | 1 | 9 | 15 | 選択した検査の詳細情報を画面を展開 (切替) せずに確認、参照することができること。 | | |
| 2 | 1 | 9 | 16 | 選択した検査に対し検査時に表示する連絡メモ情報が登録できること。 | | |
| | | | 17 | 造影検査で使用する物品情報を検査前に登録しておくことができ、検査時に実施情報として取り扱うことができること。 | | |
| | | | 18 | HISから受信したオーダー情報およびRISで付加した情報とともに、病棟、病室、オーダー番号、患者番号、依頼科名、依頼医師、検査種名、部位名、連絡メモを項目とした帳票をオーダー単位で印刷できること。一覧画面から印刷する場合は、複数オーダーをまとめて印刷ができること。 | | |
| 2 | 1 | 9 | 19 | 患者IDの手入力、カードリーダー、バーコードリーダーなどを用いて患者認証ができること。 | | |
| 2 | 1 | 10 | | ソフトウェアは以下の受付業務機能を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 10 | 1 | 受付時に必要な検査情報を1検査単位でカード化し表示で構成することができること。 | | |
| 2 | 1 | 10 | 2 | カード化画面には、検査開始時刻、検査種別、検査部位、検査室、同意書の有無、連絡コメント、オーダーコメントが表示されること。 | | |
| 2 | 1 | 10 | 3 | 当日に複数の検査を実施する場合、検査単位で複数のカード化した情報を表示すること。 | | |
| 2 | 1 | 10 | 4 | 患者IDの手入力やカードリーダー、バーコードリーダー読み込みにより、該当患者の当日検査予約情報が表示でき、受付詳細の入力、登録、当日撮影の受付、受付取消しができること。 | | |
| 2 | 1 | 10 | 5 | 当日複数検査がある患者の受付処理において、個別受付または一括受付処理ができること。 | | |
| 2 | 1 | 10 | 6 | 当日他検査予約の有無が確認できること。 | | |
| 2 | 1 | 10 | 7 | 受付時の患者に関する情報を連絡メモとして検査室に伝達できること。その連絡メモは、当該オーダーのみに紐づく情報として管理すること。 | | |
| 2 | 1 | 10 | 8 | 患者の移動情報の変更・追加ができること。 | | |
| 2 | 1 | 10 | 9 | 患者コメントを患者詳細情報として登録できること。 | | |
| 2 | 1 | 10 | 10 | 検査種別、検査室単位で受付済みの検査待ち患者数が確認できること。 | | |
| 2 | 1 | 10 | 11 | 検査待ち表示機能として、各検査室前に設置するモニタに受付済検査待ち人数、受付番号、待ち時間を表示できること。 | | |
| 2 | 1 | 10 | 12 | 受付時に受付番号、患者情報、検査室、検査開始予定時刻が記載され、撮影時の本人確認が可能な受付票を発行できること。受付票を出力するプリンタの場所は、端末・検査種別単位で指定できること。 | | |
| 2 | 1 | 10 | 13 | 受付時に、検査室、検査機器を、選択変更することができること。 | | |
| 2 | 1 | 10 | 14 | 該当患者のオーダー詳細、検査履歴が確認できること。 | | |
| 2 | 1 | 10 | 15 | 受付済のオーダーについて、受付した順番とは別に、検査を行う順番に表示順を変更することができること。 | | |
| 2 | 1 | 10 | 16 | 自動受付専用機と連携した受付処理ができること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | | ソフトウェアは以下の検査実施機能を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 1 | 検査実施における一覧画面では、端末設定により実施済検査の表示、非表示の切替ができること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 2 | 核医学検査では、注射オーダー毎、検査オーダー毎の検索・一覧表示ができること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 3 | 一覧画面から実施画面に展開する際、オーダー情報と患者情報から予め設定した条件により検査時に注意すべき事項の確認を促すこと (注意喚起ダイアログなど) ができること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 4 | 検査指示情報がある場合、実施画面へ展開した際に指示内容が確認できること。また、指示内容の見落としを防止するために色替え表示などの対応ができること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 5 | 実施画面で部位情報、撮影情報の編集 (追加、変更、削除) ができること。編集した内容は、実施情報としてHISに送信できること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 6 | 同一患者、同一検査種で複数オーダーがある場合、受付後まとめて検査ができること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 7 | HISから受信した身長・体重情報の編集ができること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 8 | HISから受信した患者情報は、障害、妊娠、薬剤禁忌、アレルギー、感染、体内金属、その他注意情報の有無をアイコン表示で確認できること。当該アイコンにマウスオーバーすることで詳細内容が確認できること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 9 | 患者情報の中で障害、妊娠、薬剤禁忌、アレルギー、感染、体内金属、その他注意情報がある場合は、画面上の表示色を変えること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 10 | 患者情報表示エリアには、クレアチニン値、eGFR値の検査結果値と検査日時が常に表示されていること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 11 | クレアチニン値、eGFR値の検査結果値が異常値の場合、色替え表示 (文字色・背景色) ができること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 12 | クレアチニン値、eGFR値の検査結果値は、検査種別+性別+年齢毎に腎機能の判定基準の6段階の色替え設定できること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 13 | クレアチニン値、eGFR値の検査日時が設定期間より古い場合は、異常値とは別の設定で色替え表示 (文字色・背景色) ができること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 14 | 患者に対する連絡メモやコメント情報が登録されている場合、メモやコメントの表示エリア背景色を変更して表示できること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 15 | 検査に直接関係しない患者コメントが入力でき、当該患者の全ての検査時に表示、確認ができること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 16 | 患者コメントとして、検査にかかわらず、日単位で管理できる当日メモを登録、表示することができること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 17 | 患者の検査種別に限定したコメントが入力、管理でき、該当する検査種別の検査時に、表示、確認できること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 18 | 検査実施画面、検査実施における一覧画面では、当該患者の検査履歴が参照できること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 19 | 使用器材、手技情報の追加・編集は、専用のテンプレート画面を用いて実施できること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 20 | 当日メインで使用する造影剤情報を予め入院・外来毎に各々の登録できること。 | | |

- : 対応可
- ▲ : カスタマイズ/他社システム導入で対応可 (対応内容を備考欄に詳細に記載すること)
- × : 対応不可

| 項番1 | 項番2 | 項番3 | 項番4 | 仕様 | 対応 | 備考 |
|-----|-----|-----|-----|--|----|----|
| 2 | 1 | 11 | 21 | 使用する造影剤が変更になった場合にプリセットマスタに登録されている当該造影剤を一括変更できること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 22 | 検査別に撮影条件、照射線量、造影剤の使用などをプリセット登録できること。 プリセットと合致する検査の実績情報は、プリセット情報を自動で反映できること。また、検査単位で任意に実施情報を変更できること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 23 | 造影剤情報など放射線検査で使用する薬歴を患者単位で管理することができること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 24 | 薬歴の管理項目としては、検査種別、検査部位、薬剤名、検査日、症状、処置を入力、管理できること。薬歴は、一覧画面、実施画面で確認できること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 25 | 検査の進捗状況（未実施、受付済み、検査中、実施済み）に応じて使用可能な機能を制限することができること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 26 | 検査室の移動を行う検査を実施する場合は、検査を中断し、別の検査室で継続できること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 27 | 複数の部位を撮影する検査において部位ごとに、検査の実施、中止ができ、すべての部位が撮影済になった時点で、実施登録ができること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 28 | 一般撮影において、同一撮影メニューでの再撮影が必要になった場合、照射線量の曝射回数と、医事会計請求上の曝射回数を別々に管理し、それぞれ、適切な記録ができること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 29 | 検査に対する実施コメントを入力でき、HISへ送信できること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 30 | 検査に対する画像診断医向けコメントが入力でき、所見レポート作成システムへ送信できること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 31 | 検査責任者、最終入力者の登録管理ができること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 32 | 複数人で実施する検査に対してチームとして登録できること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 33 | チームには検査責任者、最終入力者、検体担当者、放射線科医、施行医、看護師と役割別に登録することができること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 34 | 実施情報には、検査責任者と最終入力者を登録管理でき、HISへ送信する担当者は、検査責任者と最終入力者から任意に選択できること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 35 | 実施登録完了前に、薬品・器材・物品および各種加算情報の登録内容が確認できること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 36 | 画像診断管理加算算定に必要な情報を、読影の要否情報から判別し実施情報に自動付加できること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 37 | 検査終了時に当該患者の当日他検査の有無と進捗が確認できること。 | | |
| 2 | 1 | 11 | 38 | 検査終了時に最終入力者のパスワード認証を行えること。 | | |
| 2 | 1 | 12 | | ソフトウェアは以下のポータブル撮影対応機能を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 12 | 1 | ポータブル撮影に対応した依頼票が印刷できること。その依頼票には、病棟、病室、オーダ番号、患者番号、依頼科名、依頼医師、検査種名、部位名、依頼内容、感染情報、優先度（緊急、至急）が印刷できること。 | | |
| 2 | 1 | 12 | 2 | ポータブル撮影の実施登録は、依頼票をもとに患者情報を読み取り装置へMWM送信できること。 | | |
| 2 | 1 | 13 | | ソフトウェアは以下のモバイル端末対応機能を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 13 | 1 | モバイル端末で病棟および検査室で患者情報、検査内容の確認ができること。 | | |
| 2 | 1 | 13 | 2 | ポータブル撮影実施、ポータブル装置との患者情報連携ができること。 | | |
| 2 | 1 | 14 | | ソフトウェアは以下のコンソールRIS機能を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 14 | 1 | 富士フイルム社製の一般撮影装置、回診車およびマンモ撮影装置のコンソールに搭載表示できること。 | | |
| 2 | 1 | 14 | 2 | コンソールRISは、各装置のコンソールと患者情報、オーダおよび実績情報をやり取りできること。 | | |
| 2 | 1 | 14 | 3 | 回診車対応として、病棟などへの移動前に各種情報を取り込むことで、オフライン環境でも検査業務を行うことができること。 | | |
| 2 | 1 | 14 | 4 | ネットワークの状況に応じオンライン・オフラインの切り替えが手動で可能であること。 | | |
| 2 | 1 | 15 | | ソフトウェアは以下のIVR予約オーダ管理機能を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 15 | 1 | IVR予約情報を管理し、共有できること。 | | |
| 2 | 1 | 15 | 2 | 一覧からマウスのドラッグで手術室の割り当てができること。 | | |
| 2 | 1 | 15 | 3 | カレンダーで選択した手術室および入力したコメントをRIS実施画面に反映できること。 | | |
| 2 | 1 | 16 | | ソフトウェアは以下の3D画像生成・解析業務支援機能を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 16 | 1 | 3D画像作成・解析作業の進捗管理ができること。 | | |
| 2 | 1 | 16 | 2 | 開始時間と終了時間を登録し、業務量の把握ができること。 | | |
| 2 | 1 | 16 | 3 | 3D画像作成依頼の有無を検査一覧から確認できるようアイコンで表示されること。 | | |
| 2 | 1 | 17 | | ソフトウェアは以下のカレンダー予約参照機能を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 17 | 1 | 一覧表示に加え、カレンダー表示で予約の埋まり状況を一望できること。 | | |
| 2 | 1 | 17 | 2 | HISが部門発生オーダを取得できる場合、HISへオーダ情報及び実施情報の送信ができること。 | | |
| 2 | 1 | 17 | 3 | RISで部門発生オーダ発行する場合、同時に受付処理もできること。 | | |
| 2 | 1 | 18 | | ソフトウェアは以下の部門発生オーダ機能を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 18 | 1 | RISで放射線検査オーダを新規作成することができること。 | | |
| 2 | 1 | 18 | 2 | HISが部門発生オーダを取得できる場合、HISへオーダ情報及び実施情報の送信ができること。 | | |
| 2 | 1 | 18 | 3 | RISで部門発生オーダ発行する場合、同時に受付処理もできること。 | | |
| 2 | 1 | 19 | | ソフトウェアは以下の検査指示機能を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 19 | 1 | CT、MR、PET、RI検査の検査前に放射線科医が検査内容、当該患者の検査履歴を確認し、検査指示を登録できること。 | | |
| 2 | 1 | 19 | 2 | 検査指示情報を登録する際、検査情報、検査歴、前回画像・所見レポートが参照できること。 | | |
| 2 | 1 | 19 | 3 | 検査指示は、文章テンプレートから撮影範囲、造影剤、特殊撮影条件などを選択でき、追加でフリーコメント登録することで作成できること。 | | |
| 2 | 1 | 19 | 4 | 検査指示は、一覧画面に戻ることなく、連続して登録できること。 | | |
| 2 | 1 | 19 | 5 | 連続登録時、指示が無い場合には確認済みであることを示すマークもしくは固定文字を自動で付加できること。 | | |
| 2 | 1 | 19 | 6 | 検査実施時に検査指示内容を検査者が参照できること。 | | |
| 2 | 1 | 20 | | ソフトウェアは以下の統計管理・データ出力分析・帳票機能を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 20 | 1 | 日勤、当直、深夜、緊急の各業務区分別の業務日誌を作成できること。 | | |
| 2 | 1 | 20 | 2 | 業務日誌には担当技師、応援技師、応援時の時間、コメントを選択・入力できること。 | | |
| 2 | 1 | 20 | 3 | 作成された業務日誌は印刷できること。 | | |
| 2 | 1 | 20 | 4 | 業務日誌のフォーマットは、複数種類を使い分けことが可能なこと。 | | |
| 2 | 1 | 20 | 5 | 検査実施情報をもとに、検査種別、方法、部位分類、部位、薬剤、手技加算、オーダ内容、フィルムなどの統計処理ができ、CSVファイル出力できること。 | | |
| 2 | 1 | 20 | 6 | 検査台帳（照射録）として、期間、検査種別、検査室、検査機器、入院/外来、依頼科で集計し、印刷できること。 | | |
| 2 | 1 | 20 | 7 | 検査台帳の表示において、表示項目、表示桁数、表示順を端末毎、画面毎に設定で変更できること。 | | |
| 2 | 1 | 20 | 8 | 帳票出力時に使用するマスタデータの登録、修正ができること。 | | |
| 2 | 1 | 20 | 9 | 指定日付期間の指定検査種別ごとに、オーダ数、検査件数を内外区分ごとに集計し、印刷、CSVファイル出力を行えること。 | | |
| 2 | 1 | 20 | 10 | 指定月の指定検査種別ごとに、オーダ数、検査件数、検査項目数、患者数を内外区分ごとに集計し、印刷およびCSVファイル出力を行えること。 | | |
| 2 | 1 | 20 | 11 | 指定年（年度）の指定検査種別ごとに、オーダ数、検査件数、検査項目数、患者数を内外区分、月ごとに集計し、印刷およびCSVファイル出力できること。 | | |
| 2 | 1 | 20 | 12 | 指定日付期間の手技区分ごとに、手技の手技名称、医事数、実数を集計し、印刷およびCSVファイル出力できること。 | | |
| 2 | 1 | 21 | | ソフトウェアは以下の核医学業務支援機能を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 21 | 1 | RI検査で使用する薬品（薬品）の発注、受入れ、保管、廃棄管理を行い、法定帳簿および管理台帳の作成が行えること。 | | |
| 2 | 1 | 21 | 2 | RI検査予約をもとに使用予定の薬品および標識キットの発注リストを作成できること。 | | |
| 2 | 1 | 21 | 3 | 曜日指定、体重、年齢による、使用予定のメーカー毎の薬品の振り分けができること。1患者で複数の薬品を使用する場合の発注にも対応できること。 | | |
| 2 | 1 | 21 | 4 | 発注予定の薬品を管理し、薬品が入荷されたとき入荷処理できること。 | | |

- : 対応可
- ▲ : カスタマイズ/他社システム導入で対応可 (対応内容を備考欄に詳細に記載すること)
- × : 対応不可

| 項番1 | 項番2 | 項番3 | 項番4 | 仕様 | 対応 | 備考 |
|-----|-----|-----|-----|---|----|----|
| 2 | 1 | 21 | 5 | 締切の時間前のRI検査予約がキャンセルされた場合は発注リストを再作成可能なこと。発注リストの再作成時、キャンセルされたことを明記すること。 | | |
| 2 | 1 | 21 | 6 | 薬品メーカー、薬品をマスタ管理できると。発注段階で、薬品名、検定日、検定量、発注数、メーカーなどの一覧を作成できると。それぞれ専用の帳票で出力できること。 | | |
| 2 | 1 | 21 | 7 | 受入れ処理は、薬品および、標識キットそれぞれで実施できること。 | | |
| 2 | 1 | 21 | 8 | 受入れた薬品は、製品ごとの固有番号で管理できること。 | | |
| 2 | 1 | 21 | 9 | 保管処理は、薬品、標識キットそれぞれで保管の確認ができ、さらにそれぞれの放射線量、状態が一覧で確認できること。 | | |
| 2 | 1 | 21 | 10 | 放射線量を管理し、検査で使用された後の放射線量を半減期から自動的に計算し、廃棄する際に放射線量が設定した規定値以下になっていることが確認できること。 | | |
| 2 | 1 | 21 | 11 | カウの受入れ、ミルキング時の日時と実際の放射線量や、テクネチウム99mの分注およびキットによる標識時の詳細記録 (常温時間、攪拌の時間等) を管理できること。それぞれ専用の帳票 (カウ用、テクネチウム99m用、キット用) で出力できること。 | | |
| 2 | 1 | 21 | 12 | 廃棄処理は、可燃、不燃、難燃、廃液に区分された廃棄物の放射線の表示と廃棄管理ができること。 | | |
| 2 | 1 | 21 | 13 | 封入したドラム缶の保管廃棄処理管理が行えること。 | | |
| 2 | 1 | 21 | 14 | 特定の核種 (131ヨウ素、ストロンチウム、インジウム、イットリウム、ラジウム) を使用した場合に必要な、患者の退出記録の帳票を、一覧形式および患者毎の単票形式で、出力できること。RI検査オーガが存在しない日付での薬品の受け入れ、カウのミルキング、貯蔵状況の管理、機器の校正に使用した薬品を管理できること。治療にも対応できること。 | | |
| 2 | 1 | 21 | 15 | 薬品の筒や蓋部分に貼り付けられたバーコード (QR) を読み取り、製造番号の登録、受け入れ時の薬品の選択、検定日時、投与量の決定を自動的にできると。 | | |
| 2 | 1 | 21 | 16 | オーガ内容 (予定される検査内容、患者プロフィール (体重、体の大きさ等) 、検査の行われる曜日) から、発注する薬品は自動的に選出・表示され、発注薬品リストの作成に利用できると。 | | |
| 2 | 1 | 21 | 17 | 入庫登録した薬品について、1か月分の購入品の記録として日別に薬品毎の本数および当月内の合計がわかる帳票を印刷できること。 | | |
| 2 | 1 | 21 | 18 | 本システムで登録済みのデータ (検査内容、薬品情報、患者情報、放射線量) を、表計算ソフトで取り扱いが可能な形式で出力し、アイソトープ協会などからのアンケートの回答時などに、統計データとして利用できること。 | | |
| 2 | 1 | 21 | 19 | 使用・投与済みの薬品に関して、検定時、入庫時、投与時の各放射線量をその時の各時刻と合わせて記録を残すことができること。 | | |
| 2 | 1 | 21 | 20 | 各患者毎の実投与量を管理できると。投与放射線量と、投与時刻を合わせて管理できること。 | | |
| 2 | 1 | 21 | 21 | 実投与量を推定するために、Pre&Postの放射線量、時刻を登録し、その差分から、実投与量を計算できること。 | | |
| 2 | 1 | 22 | 1 | ソフトウェアは以下の医療機器管理機能を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 22 | 2 | JIRAガイドラインの始業・終業点検シートに対応した検査機器点検管理ができること。 | | |
| 2 | 1 | 22 | 3 | マンモグラフィ品質管理 (CR・日常) ができること。 | | |
| 2 | 1 | 22 | 4 | マンモグラフィ画像評価およびAEC (automatic exposure control) 作動確認ができること。 | | |
| 2 | 1 | 22 | 5 | 管理画面 (点検項目マスタ) により、病院独自の点検項目を削除・追加および既存項目の点検内容の変更ができること。 | | |
| 2 | 1 | 22 | 6 | 専用画面により予め定めた点検項目をチェック・入力できること。 | | |
| 2 | 1 | 22 | 7 | 月別始業・終業点検記録簿を表示、印刷できること。 | | |
| 2 | 1 | 22 | 8 | 点検簿には、始業点検結果、終業点検結果、点検者、コメントなどを表示できること。 | | |
| 2 | 1 | 22 | 9 | 検査機器のメーカー点検、修理、リプレイス、その他の作業記録を管理できること。 | | |
| 2 | 1 | 22 | 10 | 作業記録には、検査室、機器名称、資産番号、メカ、メカ担当者、連絡先、購入日、作業開始、終了時間、作業内容、作業結果、費用を登録、管理できること。 | | |
| 2 | 1 | 22 | 11 | 作業記録には、メカから受領した書類をイメージスキャナ等で電子化したファイルを添付できること。 | | |
| 2 | 1 | 22 | 12 | 作業記録に添付できるファイルは、txt、png、jpeg、jpg、doc、docx、xls、xlsx形式とする。 | | |
| 2 | 1 | 22 | 13 | 始業・終業点検が未完了の時は、RISの画面上で注意喚起が表示され、操作者に未完了の点検登録の実施を促せること。 | | |
| 2 | 1 | 22 | 14 | 医療機器管理機能は、WEBブラウザで動作できること。 | | |
| 2 | 1 | 23 | 1 | ソフトウェアは以下の技師配置支援機能を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 23 | 2 | 検査室に対し、日単位で午前、午後検査担当者を配置・表示できること。 | | |
| 2 | 1 | 23 | 3 | 技師配置表示は、日付指定の全検査室配置表示、検査室毎表示、技師毎表示ができること。 | | |
| 2 | 1 | 23 | 4 | 放射線科内の連絡事項を登録・表示できること。 | | |
| 2 | 1 | 23 | 5 | 検査室を登録・管理できること。 | | |
| 2 | 1 | 23 | 6 | 検査担当者を登録・管理できること。 | | |
| 2 | 1 | 23 | 7 | 検査担当者をグループ分けし、グループ選択により検査技師配置ができること。 | | |
| 2 | 1 | 23 | 8 | 登録した技師配置を、指定日付にコピーできること。 | | |
| 2 | 1 | 24 | 1 | ソフトウェアは以下のシステム管理機能を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 24 | 2 | 監査証跡の管理、表示ができること。 | | |
| 2 | 1 | 24 | 3 | 監査証跡記録は手動操作を対象とし、ログイン、ログアウト、検索、表示、患者情報一覧、患者情報表示、患者情報変更、一覧印刷、担当操作/個別印刷を記録できること。 | | |
| 2 | 1 | 24 | 4 | オーガ毎のRISの操作記録ができること。 | | |
| 2 | 1 | 25 | 1 | ソフトウェアは以下のマスタメンテナンス機能を満たすこと。 | | |
| 2 | 1 | 25 | 2 | 専用のマスタメンテナンス画面により各種データのメンテナンスができること。 | | |
| 2 | 1 | 25 | 3 | ユーザー毎にマスタデータの登録・修正権限を設定できること。 | | |
| 2 | 1 | 25 | 4 | 権限を持ったユーザーは、マスタメンテナンス画面にて全てのマスタデータを登録・修正できること。 | | |
| 2 | 1 | 25 | 5 | 権限は、管理者レベルと、一般利用者レベルで、2段階の設定ができること。 | | |
| 2 | 1 | 25 | 6 | 検査室内に複数の装置を設置している場合の管理を想定し、検査室と検査機器は、別々にマスタを持ち、管理ができること。 | | |
| 2 | 1 | 25 | 7 | マスタメンテナンス作業は、任意のRIS端末でユーザーログインによって可能であること。 | | |
| 2 | 1 | 26 | 1 | データ移行 | | |
| 2 | 1 | 26 | 2 | データ移行について、既設システムから過去データの移行を実施すること。また、既設システムのデータ抽出費および移行費用は本調達に含めること。 | | |
| 3 | 1 | 1 | 1 | レポート：放射線レポートシステム | | |
| 3 | 1 | 2 | 1 | ソフトウェアは以下の機能を満たすこと。 | | |
| 3 | 1 | 2 | 2 | レポートシステム機能全般 | | |
| 3 | 1 | 3 | 1 | 基本機能 | | |
| 3 | 1 | 3 | 2 | レポート端末ソフトウェアの主たる機能および付加機能はサーバーからの配信型方式とし、端末への個別インストール作業を必要としないシステムであること。 | | |
| 3 | 1 | 3 | 3 | レポート端末ソフトウェアは他システムとの干渉を考慮しデータベース接続クライアントを使用しない設計であること。 | | |
| 3 | 1 | 3 | 4 | レポート端末ソフトウェアはインターネット閲覧ソフトウェアなど、レポート端末ソフトウェア以外のソフトウェアを使用することなく稼働できること。 | | |
| 3 | 1 | 3 | 5 | レポート端末を設定する情報はレポートサーバーに保存し運用可能なシステムであること。 | | |
| 3 | 1 | 3 | 6 | ネットワーク環境と端末コンピュータの環境が許される範囲で端末からでもレポートの機能を利用可能なこと。 | | |
| 3 | 1 | 4 | 1 | ユーザー管理機能 | | |
| 3 | 1 | 4 | 2 | 利用者IDとパスワードによりログイン、ログオフが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 4 | 3 | ユーザー認証には、バーコードや磁気カードなどの利用が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 4 | 4 | 利用者の権限は、「参照のみ、入力可、確定可、修正可」の4段階で設定可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 4 | 5 | 権限設定により、外部データ出力 (印刷・CSV・HTMLなど) を禁止可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 4 | 6 | ユーザーグループ毎に表示項目や入力可否の設定が可能であること。 | | |

- : 対応可
- ▲ : カスタマイズ/他社システム導入で対応可 (対応内容を備考欄に詳細に記載すること)
- × : 対応不可

| 項番1 | 項番2 | 項番3 | 項番4 | 仕様 | 対応 | 備考 |
|-----|-----|-----|-----|--|----|----|
| 3 | 1 | 4 | 6 | ユーザーグループ毎に参照・編集制限が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 5 | | 患者情報管理 | | |
| 3 | 1 | 5 | 1 | 患者基本情報、オーガ情報の新規登録および変更が可能なこと。 | | |
| 3 | 1 | 5 | 2 | 患者プロフィール情報については、HISまたはRISから取得するものとReportで登録することができること。 | | |
| 3 | 1 | 5 | 3 | 患者について造影剤アレルギーについての情報を登録できること。アレルギーの有無、薬剤名、コメントを登録することができること。 | | |
| 3 | 1 | 5 | 4 | 患者について体内金属についての情報を登録できること。体内金属の有無、種類、コメントなどを登録することができること。 | | |
| 3 | 1 | 5 | 5 | 患者に付随するコメントの入力ができること。 | | |
| 3 | 1 | 5 | 6 | コメントはフリー入力に加えて定型コメントからの入力ができること。 | | |
| 3 | 1 | 5 | 7 | 定型コメントの編集は、コメント入力可能なユーザーであれば定型コメント選択欄から容易に可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 5 | 8 | レポート記載画面から患者単位のコメントを入力する機能を有すること。 | | |
| 3 | 1 | 6 | | レポート記入枠作成 | | |
| 3 | 1 | 6 | 1 | 放射線情報システムもしくはオータリングシステム・電子カルテシステムといった他システムより患者情報、検査情報を取得し、レポートの記入枠として自動的に作成することができること。 | | |
| 3 | 1 | 6 | 2 | 他システムから検査情報を取得できない場合でも、レポートシステムのみで検査情報の登録および変更を行うことができる記入枠作成機能を有すること。 | | |
| 3 | 1 | 6 | 3 | HIS、RISで入力された患者プロフィールや検査目的、臨床情報、造影剤やRI薬品注射などの実施情報をレポート作成時に表示できること。 | | |
| 3 | 1 | 7 | | 一覧機能 | | |
| 3 | 1 | 7 | 1 | サムネイル画像をシリーズ単位で表示できること。 | | |
| 3 | 1 | 7 | 2 | 確定時に張り付けたキー画像も表示可能なこと。シリーズ単位のサムネイルとワンボタンで切り替え表示が出来ること。 | | |
| 3 | 1 | 7 | 3 | レポート一覧では、誰がログインしているか把握できるように利用者氏名が表示されること。 | | |
| 3 | 1 | 7 | 4 | レポート一覧では患者属性情報、検査情報(患者ID/氏名/生年月日/検査種別/検査部位/造影の有無等)の各項目を任意に設定可能で、これらの情報は、各項目でソートが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 7 | 5 | ユーザーごとに検索条件をプリセットすることが可能で、設定した検索条件はワンタッチで引用することが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 7 | 6 | レポート一覧に表示された結果をCSV形式(カンマ区切り形式)で出力可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 7 | 7 | 一覧に表示された項目は、その項目をドラッグ&ドロップで移動し表示順を変更可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 7 | 8 | レポート一覧より、まだ作成されていない所見に対して、作成医を予め設定できる所見確保機能を有していること。 | | |
| 3 | 1 | 7 | 9 | ユーザー毎に、一覧に表示される項目によって文字の色づけ設定が可能であること。(例: 確定レポートは青、緊急レポートは赤など) | | |
| 3 | 1 | 7 | 10 | 一覧の中から複数のレコードを選択し、選択されていないレコードについて非表示にすることが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 7 | 11 | レポート一覧より、同一患者・同一検査種の複数のレポートが存在する場合、それらのレコードを選択しグループ化させ一括で所見入力が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 7 | 12 | レポート一覧からリスト内の検査を選択することで、同一患者の過去検査履歴が容易に確認可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 7 | 13 | レポート一覧からリスト内の未読影以外の検査を選択することで、その検査の所見・診断等が画面展開しなくても表示(所見プレビュー欄)、確認可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 7 | 14 | 上記の所見プレビュー欄の文字サイズ変更がユーザー単位で設定可能なこと。 | | |
| 3 | 1 | 7 | 15 | レポート一覧において、作成レポートを"未入力・保留・チェック待ち・確定・編集中"の5つのステータスにより確認が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 7 | 16 | レポート入力画面を閉じた際に対象レポートリストを自動的に保存し、『履歴タブより履歴レポート一覧として表示することができること。』 | | |
| 3 | 1 | 7 | 17 | レポート一覧画面の検索条件を一時的に非表示にできること。 | | |
| 3 | 1 | 7 | 18 | また、表示/非表示の切替は1操作でできること。 | | |
| 3 | 1 | 7 | 18 | レポート一覧画面から電子カルテ等の他システムを起動できるIF(引数)を有すること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | | 入力機能 | | |
| 3 | 1 | 8 | 1 | 任意に新規レポートの作成が可能であること。オーガ情報や検査情報がない場合でも単独でレポートの作成が可能であること。この場合、依頼情報、実施情報の入力も可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 2 | RIS、またはオータリングシステムから渡されたオーガ情報(患者情報)を元にレポートを作成可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 3 | DICOM Serverに登録される画像情報を元にレポートを作成可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 4 | レポート入力画面を開くと同時に対象の画像が参照可能であり、また、レポートを閉じる際にはその画像を閉じることが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 5 | レポート入力欄は、所見、診断、コメントの3項目を基本とし、これらの表示名は設定で変更可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 6 | レポート入力欄として、所見、診断、コメントの3種類の他に追加情報欄を設け、15種類以上の項目をプルダウン・チェックボックス・テキスト形式で、ユーザーが設定登録することが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 7 | 前項の所見、診断、コメントの文字入力について各々最大10,000文字(全角)まで入力が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 8 | 同一患者の検査履歴(過去レポート一覧)とその内容を入力画面内で参照できること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 9 | 過去レポートに添付された画像を同一Window内で参照可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 10 | 過去レポートの所見をボタン1つで引用でき、その際に設定登録した文章を挿入可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 11 | レポート作成者は、ログインユーザーを基本とするが、最大4名まで登録が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 12 | レポートの一時保存(保留)が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 13 | レポート確定後はレポート内容を改変できない仕組みであること。確定後にレポート内容の変更が必要な場合は修正履歴を残す修正機能により行い仕組みであること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 14 | 確定レポートと修正前のレポートを比較し、変更、追加がある文節を自動的にハイライト表示できる機能を有していること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 15 | 研修医等がレポートのチェックを依頼する「チェック待ち」のステータスを有していること。この場合、読影医と確定医の登録が可能となっていること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 16 | チェック待ちのレポートと修正後のレポートを比較し、変更、追加がある文節を自動的にハイライト表示できる機能を有していること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 17 | チェック待ちレポートと確定レポートの内容に相違がある場合、変更があった事が把握できるようにレポート入力画面の一部にマーク等を表示することが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 18 | レポートに画像やシエマをキー画像として貼り付けられること。また、貼り付けたキー画像に対して画像編集(矢印線描画、直線描画、円描画、四角描画、拡大、縮小、コメント等)ができること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 19 | キー画像として添付された画像・シエマは、ドラッグ&ドロップにより並び替えが可能で、添付画面からの削除が出来ること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 20 | 利用するシエマは任意に登録でき、又ペンタブレット等での編集も可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 21 | JPEG、Bitmap、Tiffなどの汎用画像をキー画像としてClipboard経由で貼付が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 22 | レポート添付情報として検査単位でTWAIN対応のスキャナからスキャン画像を直接取り込み、保存が可能である事。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 23 | キー画像として貼付できる画像やシエマ数は、30画像以上であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 24 | 貼り付けられたキー画像は所見入力欄と同じWindow階層で表示すること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 25 | キー画像はショートカットキーなどでワンタッチでViewerから貼付可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 26 | ショートカットキー操作で同一患者別検査の画像を貼り付けた場合は、キー画像に別検査であることと検査日をキー画像内に自動的に埋め込む機能を有すること。 | | |

- : 対応可
- ▲ : カスタマイズ/他社システム導入で対応可 (対応内容を備考欄に詳細に記載すること)
- × : 対応不可

| 項番1 | 項番2 | 項番3 | 項番4 | 仕様 | 対応 | 備考 |
|-----|-----|-----|-----|--|----|----|
| 3 | 1 | 8 | 27 | ショートカットキー操作で別患者画像をキー画像として貼り付けようとした場合、警告アラートを表示する機能を有する事。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 28 | 患者単位でのコメント入力が可能であること。(同一患者のレポート作成時に入力したコメントの参照、編集が可能であること。) | | |
| 3 | 1 | 8 | 29 | IRDコード入力に対応していること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 30 | PDFやWORD、EXCEL等のファイルを検査単位でレポートに添付可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 31 | 患者取り違え防止のため、同時に複数の患者のレポートを開くことができない設定が可能であること。但し、同時に複数レポートの展開を可能とする設定も可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 32 | レポート入力時、同一患者、同一検査種 (モダリティ) の検査であれば、グループ化して同時に同じ内容の入力が可能であること。又、グループ化されたレポートは解除することが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 33 | ユーザー毎にフォントサイズを設定可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 34 | 日本語入力機能のユーザー辞書はユーザーごとに管理され、どの端末でもユーザーが同じ辞書で操作が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 35 | スペルチェック機能を有していること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 36 | ディクテーションシステムが利用可能であること。レポート毎に音声ファイルを保管できる機能を有すること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 37 | レポート入力欄の所見と診断は、フォントや文字サイズ、太字、斜体、下線、文字色の書式設定が可能なりッチテキスト形式での入力に対応していること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 38 | 読影時間の積算機能を有していること。また、設定にてレポート入力画面に表示、非表示の設定が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 8 | 39 | レポート単位で個人コメントを入力できる機能を有すること | | |
| 3 | 1 | 8 | 40 | レポート入力画面の所見入力欄を左右に入れ替えられる機能を有すること。 また、左右の入れ替えはユーザー毎に設定できること。 | | |
| 3 | 1 | 9 | | 入力支援機能 | | |
| 3 | 1 | 9 | 1 | レポート入力にあり、所見、診断、コメントに対して定型文機能を有していること。 | | |
| 3 | 1 | 9 | 2 | 定型文機能では、定型文をユーザーごとに作成可能で、個人利用・共有利用の設定が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 9 | 3 | 定型文入力では、日付やモダリティなどの入力の効率化のために、予め設定した文字列をマシン時刻や展開レポートの情報から自動入力するブレースホルダ機能を有していること。 | | |
| 3 | 1 | 9 | 4 | 定型文は検査種別、部位、性別の区分で振り分けられ、定型文引用時に各項目で絞り込み表示が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 9 | 5 | 定型文はユーザーごとに管理され、どの端末でもユーザーが同じ定型文を利用可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 9 | 6 | 定型文は既に入力済みのレポートから記載内容を引用して、定型文として登録可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 10 | | 症例管理機能 | | |
| 3 | 1 | 10 | 1 | 所見レポートについては、ユーザー単位で任意の名称を付けたフォルダを作成して登録/管理が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 10 | 2 | フォルダはツリー状に階層管理されており、ユーザーインターフェイスはWindowsのエクスプローラーのフォルダツリーと同等であること。 | | |
| 3 | 1 | 10 | 3 | フォルダ名称は任意に設定でき、登録した検査を簡単に把握することが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 10 | 4 | フォルダへの登録はレポート一覧画面/レポート入力画面どちらからでも可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 10 | 5 | フォルダは他ユーザーへ公開/非公開の設定が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 10 | 6 | 登録した内容は、リストにより一覧表示が可能で、その一覧の内容について項目によるソートが可能であること。又、ソートした状態で保存することが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 10 | 7 | リストをクリックすると該当検査の所見、診断内容がプレビューできること。 | | |
| 3 | 1 | 10 | 8 | フォルダに登録したレポート内を指定条件で検索し抽出することができること。 | | |
| 3 | 1 | 10 | 9 | 予め登録された病名マスターを参照し、所見、診断に該当病名が記述されている検査を、病名ごとに自動仕分けして管理する機能を有すること。その際、「～は認めない」「～は否定する」など否定的に記述されているものは除外する機能を有すること。 | | |
| 3 | 1 | 10 | 10 | バンダー登録レポートの一覧にて通常検索や詳細検索とは別に表示したいカラムを表示可能とすること。 | | |
| 3 | 1 | 10 | 11 | バンダー登録レポートに対して見出し(コメント)を設定できる機能を有すること | | |
| 3 | 1 | 10 | 12 | バンダー登録レポートの一覧にて誰が登録したレポートが確認する機能を有すること | | |
| 3 | 1 | 10 | 13 | バンダー登録レポートを移動できる機能を有すること | | |
| 3 | 1 | 11 | | コンサル支援機能 | | |
| 3 | 1 | 11 | 1 | 作成中のレポートを他の医師に相談する場合、チェック待ちとして、一時保存できること。 | | |
| 3 | 1 | 11 | 2 | 医師毎にチェック待ち中のレポートを検索できること。 | | |
| 3 | 1 | 12 | | 確定機能 | | |
| 3 | 1 | 12 | 1 | 所見を確定する機能を有すること。確定した所見の変更を行えないこと。 | | |
| 3 | 1 | 12 | 2 | 確定した所見の修正が必要な場合には改版として扱うことができること。 | | |
| 3 | 1 | 12 | 3 | 改版の履歴を管理できること。 | | |
| 3 | 1 | 12 | 4 | ユーザー毎に所見の確定権限を設定できること。 | | |
| 3 | 1 | 13 | | 承認機能 | | |
| 3 | 1 | 13 | 1 | 研修医が作成したレポートに対して承認を行う機能を有すること。また、作成・承認履歴を残すことが出来る機能を有すること。 | | |
| 3 | 1 | 14 | | 印刷機能 | | |
| 3 | 1 | 14 | 1 | レポートの印刷 (複数部数指定可能) が可能であること。プリンタへの出力、PDFファイルへの出力が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 14 | 2 | 印刷時、印刷内容が1ページに収まらない場合、1枚に圧縮して印刷を行う機能を有すること。 | | |
| 3 | 1 | 14 | 3 | レポート一覧を印刷可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 14 | 4 | レポート一覧から指定したレポートを一括印刷が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 14 | 5 | 記載された所見を部数設定の上印刷することが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 14 | 6 | 印刷時、プレビューにより印刷画面の確認が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 14 | 7 | 所見レポート内の検査種別、モダリティ、診断医などの条件より自動的に印刷フォームを選択する機能を有していること。 | | |
| 3 | 1 | 14 | 8 | 所見を印刷するフォームは、ユーザー側で設定変更が容易にでき、検査種別/Modality/依頼料等各種条件によりフォームを設定することが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 14 | 9 | 院内用、院外用 (紹介状) など、複数の印刷フォームに一度に印刷することが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 14 | 10 | 確定レポートをCSV/HTML形式でファイル書き出しが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 14 | 11 | 確定レポートのDICOM-PDF形式でのファイル書き出し及びPACS登録が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 14 | 12 | 所見と診断はリッチテキスト形式での印刷とHTML書き出し、DICOM-PDF書き出しが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 15 | | 画像参照 | | |
| 3 | 1 | 15 | 1 | レポート記入時、画像ビューを起動して検査時の画像を参照することができること。 | | |
| 3 | 1 | 16 | | キー画像編集 | | |
| 3 | 1 | 16 | 1 | キー画像には直線、矢印線、円、塗潰し、四角、塗潰し四角、フリーハンド、テキストといったアノテーションを追加することが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 16 | 2 | 線の太さは任意に変更することが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 16 | 3 | アノテーションの色を任意に変更することが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 16 | 4 | テキストは/ターンを登録でき、一覧より選択して入力することが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 17 | | テンプレート文章変換入力 | | |
| 3 | 1 | 17 | 1 | テンプレート入力された内容を文章に変換し、テキスト入力エリアに反映することができること。 | | |
| 3 | 1 | 17 | 2 | 所見入力支援としてテンプレート機能を有すること。テンプレートは用途に応じて、「貼り付け型」文章変換型」「穴埋め型」など複数のタイプを用意できること。 | | |
| 3 | 1 | 18 | | 検査履歴検索予定 | | |
| 3 | 1 | 18 | 1 | 過去の検査の一覧が表示され、検査情報およびレポートの参照が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 18 | 2 | 検査履歴のレポートより入力内容を流用することが可能であること。レポートの流用は個別あるいは複数の入力エリアの内容をまとめて流用することもできること。 | | |

- : 対応可
- ▲ : カスタマイズ/他社システム導入で対応可 (対応内容を備考欄に詳細に記載すること)
- × : 対応不可

| 項番1 | 項番2 | 項番3 | 項番4 | 仕様 | 対応 | 備考 |
|-----|-----|-----|-----|--|----|----|
| 3 | 1 | 18 | 3 | 画像ビューを起動し、過去画像の参照も可能であること。 | | |
| | | | 4 | 検査歴から過去レポートや画像の参照が行えること。また過去レポートから、全文や部分指定での複写ができること。 | | |
| 3 | 1 | 18 | 5 | 患者の当日の診察予定や検査予定をレポートシステムの一覧から参照できること。 | | |
| 3 | 1 | 18 | 6 | 患者の当日の診察予定や検査予定を参照できること。(入院外来の区別、他の予約情報) | | |
| 3 | 1 | 19 | 1 | レポート記入その他 | | |
| 3 | 1 | 19 | 1 | レポートデータベースは入力項目の追加などが柔軟に行なえること。 | | |
| | | | 2 | 所見入力中の検査については、他端末からは参照のみ行えるものとし、利用中であることを視覚的に判別できる仕組みがあること。 | | |
| | | | 3 | 放射線科 Dr がレポート記載画面を展開している場合に、他端末で同一レポートの記載画面を開こうとした場合には、他端末でレポート画面展開中であることを示すメッセージを表示する機能を有すること。 | | |
| 3 | 1 | 19 | 4 | 一覧画面に戻ることなく、前レポート次レポートに移動できること。 | | |
| | | | 5 | 救急運用としてオーダ未発行でも読影レポートの作成ができ、後で発行されたオーダと紐付けが行えること。 | | |
| 3 | 1 | 19 | 6 | 1つのオーダに複数のレポートを登録できること。 | | |
| 3 | 1 | 19 | 7 | 付箋機能によりメモを残せること。 | | |
| | | | 8 | レポート記入一覧上で、救急オーダー、当日診察の有無、読影の至急度、他端末で読影中などが視覚的にわかること。また、それらの項目で検索できること。 | | |
| 3 | 1 | 20 | | 検索機能 | | |
| 3 | 1 | 20 | 1 | 入力項目全てについて完全一致、部分一致で検索可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 20 | 2 | 所見や診断部分については、AND検索、OR検索が可能であること。 | | |
| | | | 3 | 通常よく使用される検索に加え、割り込み読影依頼に対応するため患者ID患者名での検索が可能で、この際、今まで読影していた一覧にボタン一つで戻る事が可能であること。 | | |
| | | | 4 | 複数のキーワードから検索を行なう全文検索機能を有し、全文検索のスピードは、約50万件のデータから1000件のデータ抽出に10秒以内で処理が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 20 | 5 | 一度検索を行った検索結果リストに対して、更に絞り込み検索が可能であること。 | | |
| | | | 6 | 一度検索を行った検索結果リストに対して、更に異なる条件を設定し検索する事が可能であること。 | | |
| | | | 7 | 詳細検索機能で一度検索を行った検索結果リストに対して、本文診断欄に疾病に対して「～は認めない」「～は否定する」などの否定的表現(正常所見)が含まれている検査をワンボタンでハイライト表示することが出来ること。またワンボタンでこれらの検査をリストから削除することが出来ること。 | | |
| 3 | 1 | 20 | 8 | 検索結果のリストデータを展開した時に、本文検索に使用した語句が、その語句に色を付ける機能を有し、検索に使用した語句の確認が容易であること。 | | |
| | | | 9 | 検索機能は、通常検索・患者検索・リセット検索・詳細検索の4つの検索方法に分類され目的に応じた検索が可能となっていること。 | | |
| | | | 10 | 検索結果のレポートのキー画像の最初の登録画像を一覧表示する機能を有すること。キー画像をクリックすると該当検査の所見、診断のプレビューができること。 | | |
| 3 | 1 | 21 | | 全文検索 | | |
| 3 | 1 | 22 | | 検索結果表示 | | |
| 3 | 1 | 22 | 1 | 検索結果には、レポート本文が表示されること。 | | |
| 3 | 1 | 22 | 2 | カスタマイズを行わずとも、表示項目内容を設定できる機能を有すること。 | | |
| | | | 3 | 検索結果に表示する項目は設定により以下の内容がユーザー毎に指定可能であること。 | | |
| | | | 3 | リスト出力項目、出力項目タイトル、出力項目表示順序、出力項目のフォーマット・方向・幅 | | |
| 3 | 1 | 23 | | 検索結果の二次利用 | | |
| | | | 1 | 検索結果をCSV形式のファイルに出力することが可能であること。キー画像もファイルに出力したい場合はHTML形式ファイルにも出力することが可能であること。 | | |
| | | | 2 | 検索結果よりレポートを選択し、印刷、検査情報・レポートの参照、画像ビュー起動による画像参照が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 24 | | 検査指示 | | |
| | | | 1 | 放射線情報システムの検査指示入力画面をURL連携またはEXE連携で引起動できる機能を有すること。 | | |
| 3 | 1 | 25 | | 読影率計算機能 | | |
| | | | 1 | 検査数と確定ステータスの検査数から、自動的に読影率計算ができる機能を有すること。 | | |
| | | | 2 | 指定期間の全検査数及び全読影数(確定検査数)、当日読影数、当日読影率、翌日読影数、翌日読影率、翌々日以降の読影数、翌々日以降の読影率、未読影数の計算及び一括表示が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 25 | 3 | 計算対象期間の設定を任意に行うことが可能であること。また、今日、昨日、今月、前月、今年、去年については、リセットボタンでワンタッチ設定が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 25 | 4 | 休診日の条件設定が可能であること。曜日別の休診日及び祝日や特定の休診日などは予め任意に設定しておくことが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 25 | 5 | 計算対象のモダリティを任意に設定可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 26 | | 統計機能 | | |
| | | | 1 | 予め登録された病名マスターを参照し、診断に該当病名が記述されている検査を、病名ごとに自動仕分けをして疾病別の患者数を自動で集計できること。 | | |
| | | | 2 | 期間指定、患者数指定(例 50人～500人)、検査年別、年代別、併発病名別で集計を行うグラフ表示にも対応すること。 | | |
| 3 | 1 | 27 | | データ分析 | | |
| | | | 1 | 検査数と確定ステータスの検査数から、自動的に読影率計算ができる機能を有すること。 | | |
| 3 | 1 | 28 | | 他システム連携 | | |
| | | | 1 | 放射線情報システムや電子カルテ・オータリングシステムより患者情報、オーダ情報を受信できること。また、これらのシステムに対してレポート確定通知情報を送信することができること。 | | |
| | | | 2 | 画像管理システムに対して患者情報、オーダ情報、検査実施情報を受信することができること。また、画像管理システムより画像到着通知情報を受信できること。 | | |
| 3 | 1 | 28 | 3 | 電子カルテに確定レポートの作成通知が可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 29 | | レポート配信機能 | | |
| | | | 1 | 確定レポートについてWeb方式あるいはWeb方式と同等の方法でレポート参照が可能であること。 | | |
| | | | 2 | レポート一覧からリスト内の未読影以外の検査を選択することで、その検査の所見・診断等が画面展開しなくても、確認可能であること。 | | |
| | | | 3 | Web方式等でレポート参照を行う場合は、表示される画面から過去のレポートも表示可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 29 | 4 | 指定の改版履歴(旧版)と最終確定レポートを並べて比較できる機能を有すること。 | | |
| 3 | 1 | 29 | 5 | 指定の検査履歴と最終確定レポートを並べて比較できる機能を有すること。 | | |
| 3 | 1 | 29 | 6 | Web配信されたレポート画面から専用のフォームにて出力可能であること。 | | |
| | | | 7 | Web方式で配信されたレポートを印刷する場合、レイアウトを崩さなくフォームの自動調整を行い印刷することが可能であること。 | | |
| | | | 8 | 配信レポートの一覧画面で表示している項目で、レポート一覧を昇順・降順に並び替えること。 | | |
| 3 | 1 | 29 | 9 | 配信レポートの一覧画面から電子カルテ等の他システムを起動できるIF(引数)を有すること。 | | |
| 3 | 1 | 30 | | セキュリティー機能 | | |
| | | | 1 | レポート端末ソフトウェアは一定時間操作しなかった場合に、自動的にログアウトする機能を有していること。 | | |
| | | | 2 | 所見入力中の排他制御が可能で、あるレポートが開かれている場合、次に開こうとした場合は参照のみ可能となり、誰が開いているかが表示され確認することが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 30 | 3 | 端末ごとの利用者をログ管理する機能を有し、このLOGについては、病院のシステム管理者が何時でも確認することが可能であること。 | | |

- : 対応可
- ▲ : カスタマイズ/他社システム導入で対応可 (対応内容を備考欄に詳細に記載すること)
- × : 対応不可

| 項番1 | 項番2 | 項番3 | 項番4 | 仕様 | 対応 | 備考 |
|-----|-----|-----|-----|--|----|----|
| 3 | 1 | 30 | 4 | 確定、修正、保存等の操作を行なった場合のログ管理機能を有し、このログについては、病院のシステム管理者が随時確認することが可能であること。 | | |
| 3 | 1 | 31 | | データ移行 | | |
| 3 | 1 | 31 | 1 | 既設システムからのデータ移行については、過去のデータの移行を実施すること。 また既設システムのデータ抽出費および移行費用は本調達に含めること。 | | |
| 4 | 1 | | | 教育体制 | | |
| 4 | 1 | 1 | 1 | 利用者に対しシステム説明員を派遣し、関係者への教育訓練及び保守等の教育を行うこと。 | | |
| 4 | 1 | 1 | 2 | サーバ管理体制が有効に行われるように管理者に対して教育訓練を行うこと。 | | |
| 5 | 1 | | | 保守体制 | | |
| 5 | 1 | 1 | 1 | 万一の障害時にも迅速な対応ができるように24時間のコールセンターを有した連絡体制がとられていること | | |
| 5 | 1 | 1 | 2 | 納入検査確認後1年間は、通常の使用により故障した場合は、無償修理に応じること。 | | |
| 5 | 1 | 1 | 3 | システムメンテナンスのため、オンラインサポートが可能であること。 | | |
| 5 | 1 | 1 | 4 | 障害の自動検出機能を有し、システムに障害が発生した場合、サービスセンターに自動通知され、エンジニアの即時対応が可能であること。 | | |
| 6 | 1 | | | 設置関連 | | |
| 6 | 1 | 1 | 1 | 当院の指定した場所において本装置の据付、配線、調整等を実施すること。 | | |
| 6 | 1 | 1 | 2 | RIS (治療RIS含む)・RISレポートとの接続・設定に関わる仕様については病院・各メーカー間で協議し現状運用を保つこと。 | | |
| 7 | 1 | | | その他 | | |
| 7 | 1 | 1 | 1 | 本システムに使用する機器が、製品仕様の改訂または廃止等によって調達が困難な場合は、当該機器と同等以上の機能を有する機器を提供すること。この場合、事前に施設担当者との協議の上で承認を受けること。 | | |